

16日からスタート

新連載「世阿弥といっしょ」

著者 渡辺睦子さんに聞く

53



「劇中、疲れているときは紙に勝てないことも。でも終演後『あら向かか気持ち良かったわ』でもいいのではないだろうか」と語る渡辺睦子さん
＝神戸市垂水区（撮影・吉田敦史）

9月まで第3回「白夕子」面に連載した「えつと能楽」に代わり、16日から新連載「世阿弥といっしょ」まにまに能の「名目」をスタートする。能の演目と漫画で紹介したロンケと「まんが能楽」(平凡社)の著者渡辺睦子さん(66)＝神戸市垂水区＝が能の大成就、世阿弥の言葉と能楽について漫画と文章でつづる。渡辺さん(意気込みを聞いた)。(松本寿孝)

現代に響く「花伝書」の言葉

井願一さん(西宮市)が指導されていた。舞台にライアイスをたたく斬新な演出で、私たち学生もお手直し、当日に脱ぎ、ログラムのあらすじ書き頼まれたんです」
「一曲を1コマに描く独自のスタイル。絵に現代のバトカやバスなども登場し、ポップな書きぶりでユーモアがある」
「一枚の紙を回し折ったら12コマに割れ描き始めた。絵は幼いころから姉妹で遊び描いていた。専門的に学んでいくではないです。でも皆さん喜んでくださり、

親世流シテ方の人間国宝大槻文蔵先生が『目録について本にすべきた』と出版社にないでくださいました」
「改裝前のマンガ能目録は1966年、25歳のとき刊行。2009年に新版版主さんが能目録」になり、11年には親まんが能目録も出た。
「最初に本にする提案を頂いたのが大卒卒業後、業教師の国家試験は受かったけれど就職せず、3年間、家にこもりきりで白描描きました。父がそとすべきたと言っ

漫画と文で能の魅力紹介

てくれた。どう表現すれば曲の面白さが伝わるか、1コマに1場面をいれたらいいなとありましたが、自分が楽しんで描いてました」
「能の魅力を」
「最近はお謡の抑揚が好きです。うっばり音が巧みで、詩的な味わいです。あとは所作の美しさ。演者さんがおいて、スッと動く瞬間、おしい、センスが出る、それは毎日観られるものではなく、見れたときは『ちそうさま』って思っています」
「今回の連載は世阿弥が主人公。『能を演目そのものとは違う角度から紹介したい』という思いで、世阿弥が花伝書に残した言葉は今も大響く



渡辺睦子さんが描いた熊野郡の登場人物たち(左)歌舞伎町遊園地でも知られる能安宅の登場人物たち(右)です(まんが能目録より)